



Title	北海道經濟文化の基礎的條件：明治維新前北海道綜合經濟史研究の一過程
Author(s)	南, 鐵藏
Description	資料
Citation	北海道帝國大學法經會法經會論叢, 4, 167-190
Issue Date	1936-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/10633
Type	departmental bulletin paper
File Information	4_p167-190.pdf



北海道經濟文化の基礎的條件

—— 明治維新前北海道綜合經濟史研究の一過程 ——

南

鐵

藏

一 經濟文化の基礎的條件

抑々「文化」とは如何なる謂なりやは學者に依つて其説を異にす可しと雖も私は先づ「人間が理想實現の目的を以て自然を支配し、自然に或る價值を附加する過程の總稱である」と爲す。而して之を物質的か又は精神的か何れか一方を強調する事によつて經濟的文化と云はれるか精神的文化と云はれるかに岐れて來る。本稿は此中の前者を立場とする。

斯く物質的なる事に重きを置く經濟的文化を更に具象的に表現するならば經濟的文化とは經濟的意慾が勞働によつて自然的經濟素材に作用した過程の綜合的本質を謂ふものなりと爲すことが出来る。

而して經濟的意慾と勞働とは人間の作用に屬し此作用の對象となるものが自然的經濟素材なるが故に經濟的文化は人的方面と自然的方面との二分野に分れ、一は「人間の經濟的慾求を中心として經濟的文化に働きかける人的要素の存在状態」と他は「自然が保藏する經濟的文化に資する所の素材の内容状態」なる此二つの状態が經濟的文化に向つて働く作用の結合に依て決定せらるゝものなるが故に此二大状態は經濟的文化の基本を成すもの

と稱する事が出来る。

此場合自然と人間との二つが對立的となるのではあるが、然し此場合の對立の意味は人間と雖も元來自然の中の一であるといふ事に反對せんとするのではなく、唯人間が人力を以て自然に働きかけ其反作用をなす範圍に人間を主體に置く限りに於て人間も自然に對立し得るといふ事が可能なるものと看做して此對立關係を認めたるに過ぎない。次に以上人間と自然に於ける二大状態が經濟的文化に働く作用は人間の場合の積極的なるに對し自然の場合は其自ら保藏する内容を前提的に準備するに過ぎざるを以て作用といふも消極的なりと云ふ可きである。

然るに經濟的文化の發達様相なるものを觀察するに何れの地域に於けるも決して同様なる事は有り得ない。これ畢竟經濟的文化に作用する所の上述の二大基礎の状態が其地域を異にするに従ひ同一の事情には置かれてゐない所に基因するのである。何となれば經濟的文化は此二大基礎の作用如何によつて結果せられ此作用は此二大基礎如何によつて結果せられるが故である。今環境なる語を假に「有機體の外圍に在りて之に影響を及ぼす凡べての事情状態」を謂ふものなりと假定し、經濟的文化を以て一の有機體なりと看做す事が許されとするならば以上の「基礎の状態」は「環境」なる語を以て表現する事が出来る。

此場合一見以上の二大基礎は有機體たる經濟的文化を構成する一部たるべき觀ありて環境とはなり難きの嫌なきにしも非ずと雖も蓋し經濟的文化の一部を構成するに至れるは正に之を經濟的文化の上に採り入れたる後の事に屬し、未だ經濟的文化の中に採り入れられず、唯之を左右する一つの狀態としてのみ存在する間は之を以て環境と看做すも敢て不可なき事と思ふ。

此二大環境が經濟的文化に基礎的制約をなしつゝ該文化に作用し、之を決定するものなるが故に本稿に於て經濟的文化の基礎的條件とは即ち此二大環境を指すものである。而して此二大環境の内容として如何なる事項を取扱

ふやも論者に依て其觀點を異にす可しと雖も私は先づ之を

自然的環境

自然的形態 (地勢 || 山岳・原野・水面 (湖沼河海))
地域・位置
自然的勢力 || 氣力・地方・水力・天災

人間的環境

数量
社會制度 || 政治組織・財産制度

と定めて觀察しやうと思ふ。然らば明治維新前の北海道に於て此等は如何なる状態なりしと觀て可なるべきか先づ自然的環境に就いては如何。

二 自然的環境

(I) 自然的形態 之を地理學上よりすれば垂直的形態(地勢)と水平的形態(地域・位置)とに區別し得るが先づ此等の前提として北海道の成立より始める。

(甲) 北海道成立の状態 地質學上北海道の成立状態を大觀すれば現状に於ける北部の宗谷岬・南部の襟裳岬・西部の渡島半島及び東部の根室なる四突起部を結合すれば一個の菱形を形成し、之より對角線を引く時は東西・南北の二線が中央に於て相交りし恰も十字形を成す。之が半島を構成する骨體的 MAIN 山脈の姿で、此南北に連る山脈は中生代の終り 四千萬年又はより第三紀 四百萬年又は四千萬年前よの初めに海底より隆起し、第四紀 即ち現代に十五萬年程以へかけて漸次其附近を高めつゝ洪積層 第三紀より沖積層 第四紀初を作り爰に初めて第一の北海道が南北に細長く浮び上り、次に東西に連る山脈は第三紀末頃より洪積期にかけ一齊に噴出せし火山の一脈の隆起となつて浮び上り、斯くして此十字的山脈の骨格が恰も翼を擴げしが如く引摺られ菱形を成しつゝ海上へ浮び上つた姿が

即ち現今の北海道であると地理學者は説く。¹⁾

人を離れて土地は無く土地を離れて人も無しと言ひ、彼の偉大なる地理學者ラツツェル F. Ratzel の如きも經濟こそ政治よりも土地とより、密接な關係を有つものであるといふ事は常に原則であるとも言つてゐるが、人を離れて土地なしとは多少議論の餘地無しとせざるも人間經濟生活上斯の如き至大の關係を有する地盤は北海道に於ては斯くして爰に其成立を觀、之が形態上に於て將又勢力上に於て本道經濟の展開上二大基礎的條件の一を構成したのである。而して明治維新前の此等の諸相に關し常時に於て科學的に研究せられたものあらば最も理想的なりとするも勿論斯の如きものは望み得る所ではない故に先づ考究の方法としては主として現代の狀態を科學的に調べたるものを基礎的資料とし、之を以て舊時の狀態と大局に於て大差なきものと看做し考察を進める事とする。然らば垂直的形態たる地勢に就ては如何。

(乙) 地勢 **イ** 山岳と原野。山の聳立は「山岳地方の住民は自由を愛するに比し、平野に住する安逸なる農民

は容易に專制的支配に隸屬する傾向あり」とモンテスキューは云へる如く、又山岳に圍繞せられて居る西藏人は封鎖主義であり其反對なる和蘭人は開放主義であると經濟地理學者の説く如く經濟的發展を制約する環境の一と見らるゝ人性にも大なる影響を與へるものではあるけれども、又山岳が直接經濟上に及ぼす影響を考へて見ても例へば生産上山は山林の生育地となり、從て鳥獸の棲家となり、防風壁となりて生物の生育を調和し、礦物を埋藏する。之が爲め産業は主として狩獵・林業・鑛業等が行はれるものである。而して其採鑛上に於ては鑛産物が平地に埋没せられある場合よりも山中に埋藏せられある方がより、便宜を與へる。交通上より之を觀る時は山は交通を遮斷し、經濟的發展を阻害する場合も少くない、殊に山脈の方向が海岸に平行せる場合に在ては全く海陸の交通は杜絶の外は無いのである。されど若し此方向が海岸に向つて垂直に走れる場合なるに於ては例へ山脈が存在してゐても航海術の發達によりては此弊より或程度迄は避け得られるのである。

1) 北村詮次郎 有史以前の北海道と其變遷。
佐野學・北川三郎共譯 ウェルス世界文化史大系 (1) 頁 21, 120.

次に原野であるが之は森林・農作物或は畜産物等の育成地となる。然し農業上に在つては元來山は耕作には適するものではない。例へば佛國・ハンガリーの盆地・アルゼンチン平野・印度の大平野等農業の盛んなる地が皆平坦なる土地である事が共通であるに觀ても明である。又畜産業に在つては高原地方に行はれる。

北海道が山國なる事は古文獻にも散見せずとせず例へば

蝦夷地山多くして平地少く(蝦夷記・寶永七年・幕府巡見使一行)

按蝦夷(略)山岳多嶮阻不能陸行(和漢三才圖繪^{六四}地理^{三四}正徳二年・寺島良安)

蝦夷(略)依^レ山島爲^レ國。地多^ニ山嶮。僅通^ニ禽鹿徑(蝦夷志・享保五年・新井白石)

夫我ガ毛夷國タル土地山海ヲ兼テ(略)地廣ク山嶮シ(松前志^二卷之^一天明元年・松前廣長)

と在るに徴しても其大要を知る事を得るが、之を更に今日の科學的研究の説明を以てすれば

「主軸的山系は脊梁山脈とも(又は中央山脈・)稱へ北日本外帯に屬するもので一部は日高山脈とて日高の南端襟

裳岬より起り日高・十勝の西境を走りて宗谷に至り、他は天鹽山脈となりて前者の西を並走し其餘脈は南に延びて増毛山群に連る。以上は主として火山岩以外より成るが之に對し此脊梁山脈に中央にて交叉し本島を南北二部に分つ所の脊梁山脈の以東なる千島火山脈系統(其主峰は知床半島に起り釧路國に入り摩周山・阿寒岳を作り、)と、其以西なる東北日本内帯の延長とも見らるべき那須火山脈系統(渡島の東南端に惠山を起し北進して駒岳・有)とより成る。此結果本島は東北・東南・西北・西南の四斜面區に分割せられ之に従つて一大原野が展開せられてゐる。即ち

北西斜面區の本道平野中最も廣大にして本道中央の凹地帯をなす石狩・天鹽の兩平野、東北並に東南斜面區なる十勝・釧路・根室・北見の臺地性平原(就中十勝平野は最も廣大にして第四紀古層より成る)、西南斜面區の膽振平原等は其主なるものであり、而も此中石狩平野と十勝平野とは共に關東平野に亞ぐ大平野であり又膽振平野は其面積廣大ならずと雖も

石狩平野と相連りて北海道を縦斷せる低野を作り本道を地形的にも地質的にも之を二分する。」
 と言はる。²⁾尙後記の「蝦夷志」に載する水流の方向も併せ徴するならば亦往時の状態としての推測を一層授けるであらう。

而して以上の傾斜を角度の上より觀る時は二十度以下のもの約四百萬町歩(本道總面積の五〇%)、十五度以下のもの約二百萬町歩(同二五%)で本道總面積に對し後者は前者に相半ばしてゐるが、此等は府縣に比し其割合稍大である。³⁾

然らば以上の状態は本道經濟的發展に如何なる程度の制約を與へてゐるかと云ふに曩に前提せし如く林業・狩獵・農業・牧畜或は鑛業等に夫々の地位を與へてゐるけれ共然し之が限界に至ては容易に決定し得るものではない、此故に少くも極めて消極的になりとも之を決定せんとすれば現状を假に採て觀るより他に方法は無いであらう、然らば此等の現状は如何。

森林に在ては昭和五年末現在にては五、六五〇、五〇五町で本道總面積七、九二一、五九四町の七一・三%に當てゐる。⁴⁾又之が我國全體の上より觀て如何なる地位を占め居るやといふに農林省農務局の調査に依れば昭和五年に於ては我國總面積三八、五〇五、四五九町に對し我國の林野全面積は二〇、〇四四、九〇一町(總面積に對し五二%)となつて居り、北海道廳の調査にては同年末現在の我國林野面積の割合を六三・四%となし、これ世界の首位たる芬蘭(七三・五%)に亞けるものであり更に之を内國的に觀れば樺太の七八・九%を首位とし北海道の七四%が第二位とせられてゐる。⁵⁾

狩獵に在ては古文獻に徴するに享保五年の新井白石の「蝦夷志」には「鷹鶴鷓鴣。皆巢三林木深澗之間。」若鷹及鷓鴣方産最。山有熊羆麋鹿。」とあり又天明元年の松前廣長の「松前志」(禽獸部)には「シマフクロ・テイコ・ツル・シカヘ・カモメ・トキ・イトヒリカ・ラシトリ・クワイテウ・シキ・ウノトリ・ドハト・クヒナ・ハクテウ・ウミガン・カモ・ウトフ・ケラツ、キ・ウヅラ・ツバメ・ウグヒス・ホト、ギス・カハセミ・ヒバリ・イヌカ・シジウカラ・ツクミ・メジロ・カ

2) 北海道農事試験場 第一陳列館陳列品解説 頁 1.
 鈴木 醇 地勢及地質(改造社地理講座日本篇 第一卷)頁 184. 186. 194.
 3) 北海道廳經濟部 北海道農業概要(昭和十年) 頁 1.
 4) 北海道廳 北海道に於ける木材需給關係考察資料 頁 1.
 5) 農林省農務局 本邦農業要覽(昭和八年十一月) 頁 2.

ケス・モズ・「ホウイヌ(キネズミ)・ジャコウネコ・クマ・」等を記載してある。
ウソ・ヒワ・「シカ・コツヒ・トンビ・キツネ・ウサギ・犬」

農耕上に占むる地位は如何といふに我國に於ては傾斜十五度以下なる地は耕種及其他の農業生産に供し得ると云はるゝが之に對して北海道の狀況は既述の如く十五度以下のもの二百萬町步となつてゐる。而して事實各斜面地に於て幾何の耕作を行ふ能力を有せりやといふに北海道農事試験場の昭和五年の調査に依ると(昭八年の調査に於ては其面積を増加するも比較の標準の爲に假に此年を採る)

	水田	畑	田畑計
西北部(後志・石狩・天鹽)	一七、四〇八	三三、一二六	三六、五三四
西南部(渡島・膽振・日高)	三五、八三〇	一〇、八九八	一七、七四一
東南部(十勝・路路・根室)	一、三六七	一六、六六三	一八、七三〇
東北部(北見)	一六、五八五	一一、一六四	一七、七三二
合計(七、三、五、六町 四傾斜地總面積)	一八〇、七五三	六三、七三〇	八〇、八六七
本島總面積	七、三二二	三二、八二町	三六、五九三
	一〇〇・〇	二・六%	八・〇%

とあるが、今此四斜面區總面積に對する此等の百分比を見る時は水田が二・二八%、畑地が七・九三%計一〇・二一%となる。然るに同年末現在の北海道廳調査に依れば
で畑は田の約三倍を示してゐる。而して之を我國全體に對し如何なる地位を示してゐるか云ふに若し昭和四年九月一日の我國の總面積を三八、五〇七、七一九町とせば北海道の總耕地面積は此九%に當り、十一地區別(東北・關東・北陸・東山・東海・近畿・中國・四國・九州・沖繩)中關東區の二九%を最高位とし北海道は最下位に在るも、之を我國耕地總面積の上より觀る時は

6) 4) 同 斷 頁 1.
7) 田中啓爾 農牧業 (改造社 地理講座 日本篇 第7卷 總論) 頁 378.
8) 5) 同 斷 頁 13.

耕地總面積	實數		%
	實數	%	
全國	5,913,350町	100	3,913,550町
北海道	6,912町	100	1,912町
東北區	6,912町	100	3,912町
關東區	6,912町	100	4,912町
北陸區	6,912町	100	5,912町
東山區	6,912町	100	6,912町
東海區	6,912町	100	7,912町
近畿區	6,912町	100	8,912町
中國區	6,912町	100	9,912町
四國區	6,912町	100	10,912町
九州區	6,912町	100	11,912町
沖繩縣	6,912町	100	12,912町

總數	實數		%
	實數	%	
1,912,770町	100	1,912,770町	
1,912,770町	100	2,912,770町	
1,912,770町	100	3,912,770町	
1,912,770町	100	4,912,770町	
1,912,770町	100	5,912,770町	
1,912,770町	100	6,912,770町	
1,912,770町	100	7,912,770町	
1,912,770町	100	8,912,770町	
1,912,770町	100	9,912,770町	
1,912,770町	100	10,912,770町	
1,912,770町	100	11,912,770町	
1,912,770町	100	12,912,770町	
1,912,770町	100	13,912,770町	
1,912,770町	100	14,912,770町	
1,912,770町	100	15,912,770町	
1,912,770町	100	16,912,770町	
1,912,770町	100	17,912,770町	
1,912,770町	100	18,912,770町	
1,912,770町	100	19,912,770町	
1,912,770町	100	20,912,770町	
1,912,770町	100	21,912,770町	
1,912,770町	100	22,912,770町	
1,912,770町	100	23,912,770町	
1,912,770町	100	24,912,770町	
1,912,770町	100	25,912,770町	
1,912,770町	100	26,912,770町	
1,912,770町	100	27,912,770町	
1,912,770町	100	28,912,770町	
1,912,770町	100	29,912,770町	
1,912,770町	100	30,912,770町	
1,912,770町	100	31,912,770町	
1,912,770町	100	32,912,770町	
1,912,770町	100	33,912,770町	
1,912,770町	100	34,912,770町	
1,912,770町	100	35,912,770町	
1,912,770町	100	36,912,770町	
1,912,770町	100	37,912,770町	
1,912,770町	100	38,912,770町	
1,912,770町	100	39,912,770町	
1,912,770町	100	40,912,770町	
1,912,770町	100	41,912,770町	
1,912,770町	100	42,912,770町	
1,912,770町	100	43,912,770町	
1,912,770町	100	44,912,770町	
1,912,770町	100	45,912,770町	
1,912,770町	100	46,912,770町	
1,912,770町	100	47,912,770町	
1,912,770町	100	48,912,770町	
1,912,770町	100	49,912,770町	
1,912,770町	100	50,912,770町	
1,912,770町	100	51,912,770町	
1,912,770町	100	52,912,770町	
1,912,770町	100	53,912,770町	
1,912,770町	100	54,912,770町	
1,912,770町	100	55,912,770町	
1,912,770町	100	56,912,770町	
1,912,770町	100	57,912,770町	
1,912,770町	100	58,912,770町	
1,912,770町	100	59,912,770町	
1,912,770町	100	60,912,770町	
1,912,770町	100	61,912,770町	
1,912,770町	100	62,912,770町	
1,912,770町	100	63,912,770町	
1,912,770町	100	64,912,770町	
1,912,770町	100	65,912,770町	
1,912,770町	100	66,912,770町	
1,912,770町	100	67,912,770町	
1,912,770町	100	68,912,770町	
1,912,770町	100	69,912,770町	
1,912,770町	100	70,912,770町	
1,912,770町	100	71,912,770町	
1,912,770町	100	72,912,770町	
1,912,770町	100	73,912,770町	
1,912,770町	100	74,912,770町	
1,912,770町	100	75,912,770町	
1,912,770町	100	76,912,770町	
1,912,770町	100	77,912,770町	
1,912,770町	100	78,912,770町	
1,912,770町	100	79,912,770町	
1,912,770町	100	80,912,770町	
1,912,770町	100	81,912,770町	
1,912,770町	100	82,912,770町	
1,912,770町	100	83,912,770町	
1,912,770町	100	84,912,770町	
1,912,770町	100	85,912,770町	
1,912,770町	100	86,912,770町	
1,912,770町	100	87,912,770町	
1,912,770町	100	88,912,770町	
1,912,770町	100	89,912,770町	
1,912,770町	100	90,912,770町	
1,912,770町	100	91,912,770町	
1,912,770町	100	92,912,770町	
1,912,770町	100	93,912,770町	
1,912,770町	100	94,912,770町	
1,912,770町	100	95,912,770町	
1,912,770町	100	96,912,770町	
1,912,770町	100	97,912,770町	
1,912,770町	100	98,912,770町	
1,912,770町	100	99,912,770町	
1,912,770町	100	100,912,770町	

(昭和四年九月一日現在)

であつて第一位が關東區の一六%、第二位が東北區の一五%、第三位が即ち北海道區及び九州區の一四%で本道は第三位を占め九州區と相匹敵してゐる。而して此本島農耕地を内譯を以てすれば水田に於ては他の十區の水田に比する時は下より第三位に在るも如地二三%に至ては全區中の第一位を占め次が關東區の二〇%、九州區の一四%、東北區の一三%、其他は六%以下である。又右表の示す如く同じ加作地にしても國內一般を普通畑・桑畑・茶畑・果樹園・其他の樹木如に大別する時は普通畑は全國第一位で即ち全國普通畑の三三%を占め次は關東區の一五%、九州區の一五%、東北區の一三%、其他は四%以下である。

牧畜に就ては北海道廳の調査にては昭和五年末現在本島放牧地は四五・一、一四八町、之が本島總面積に對しては五・七%を示してゐるが、更に昭和八年北海道農事試驗場の調査に依れば次表の如くである。

	既成 牧場	放牧 適地
西 北 部	四〇、六四一・八町	三九〇、五二九・四町
西 南 部	八七、三四一・九	一九五、六二三・六
東 南 部	一六三、四九六・一	二七六、五六三・五
東 北 部	八一、九五四・四	一九一、五九四・六
合 計	三七三、四三五・二	一、〇五四、三一・一

然るに昭和五年農林省の調査にても本島牧場地を四五・一、一四八町と計上し本道の全面積を七、九二二、五九四町となして居るが之に依て本島牧場地の百分率を求むる時亦五・七%となり、之を更に我國全體より觀れば昭和五年の我國總面積三八、五〇五、四五九町に對しては約一・一七%を占め、我國全牧場原野三、二九九、九一四町に對しては約一三・九二%を占めてゐる。

鑛業産も非常に有望であるが之は後述に譲る。

□ 水面。人間の經濟生活に最も強烈な影響を與ふる自然的基礎は其地域が如何なる程度に水を供給し得るやの事項である。西歐にても植民地建立上、缺く可からざる要素を三W (Water, Work, Will) とし水は此中の一に數へられて居るが之は獨り西歐のみに限らず農業國たる我國にても古來新村建設上の一大要件たりし事は同様であつた、されば又例へ一旦住地定まると雖「水の完全な缺乏は凡ての生命從て現經濟人をも水の潤澤な地方へと移動を餘儀なくせしむる」とさへ云はるゝ程大切な要素である。

水面の存する處水産業行はれ、河湖は沃野を形成して農業の適地たらしめ、或は木立と相俟て又は之を俟たずして狩獵地たらしめ又交通上に利便を與へるものである。殊に海洋は交通上最も重要性を有してゐる。

1. 頁 2.
2. 頁 2.
3. 同 同
4) 同 同
5) 同 同

9) 4) 10) 5)

自然は水を海洋と陸上水面との二つの形態を以て人類に與へてゐる。

海洋 何れの地にも之を有すとは限つてゐないが之は一面には水産物の支持者となり漁産業を行はしむるは例へば諾威の輸出の三割は海産物が占めてゐるといふ事に依ても知られ、又海陸文化の交流地は海岸に在るものであつて一地方の文化が發展すればする程益々缺く可からざるものとなる事は彼の獨逸が僅か西北に於て大西洋に面せる事が斯國經濟界に如何に活氣を興くてゐるかの事例によつても明白である。此故に其他海岸が良港に富むや否やは其他經濟文化の上に至大の關係を及ぼすものと知るべきである。

北海道大島の海岸線は六六五・一〇里を有し可成り長しとするも海岸は概して屈曲少きが爲天然の港灣に乏しく僅に函館・小樽・室蘭・釧路・根室・網走・稚内・留萌・岩内等を數ふるに過ぎず。斯かる良港に乏しきは他方又漁獲に當り漁港の乏しきを示すものであり沖合遠洋漁業の發展上不利の立場に在るものとす。

河川 分合行はるゝ爲今日の狀態を以て直に過去を悉く推すといふ事は出來得ざる可しと思ふも其主なるものゝ大様に就ては大同小異なる可しと思ふ。前述新井白石の「松前志」に依れば「水皆就其界。而瀦爲二澤。其在東則南流入于東海。其在西則北流與東北諸水合爲大河。入于西海。二水入海之處。相距二十五里」と記し大略の一面を推知し得可しと思ふが之を今日の狀態にて觀れば兎も角河川としての主なるものは石狩河・天鹽川・十勝川等であり何れも中央山地より其源を發してゐる。石狩河は我國第二の大河にて日本海に注ぎ其河筋に沿うて諸所に半月湖が存在し往時の蛇行の跡を示してゐる。下流約五〇里の間は水量に富み小蒸汽船を通じ得るが其流域には廣大なる石狩沃野を控え本道第一の農業地を成してゐる。其支流としては雨龜川・空知川・江別川等が顯著である。天鹽川は本邦第四位の大河にて中流以上は肥沃で能く開墾せられて居るが下流は概ね濕地で農業には適しない。支流は約九つあるも著しきものなし、何れも日本海に注いでゐる。十勝川は本邦第九位の長河で十勝平原を貫流する間に音更川・利別川其他の支流を集め太平洋に注いでゐるが流域に沿へる約五六九

11) 北海道廳 北海道勢一斑(昭和八年) 頁 1.

12) 2) 鈴木 醇 阿蘇 頁195—197.

北海道廳 北海道水産要覽(昭和四年) 頁 1. 7.

平方里（八七八〇平方籽）に及ぶ平地は極めて肥沃で現狀よりすれば農産物集散都市を控えるの地位に在る。又以上石狩・天鹽・十勝の三大川は何れも舟楫の便を與ふ事尠ならず。

尙此外日本海へ注げる遠別川・羽幌川・小平藥川・留萌川・余市川・尻別川・利別川等、オホツク海側には斜里川・網走川・常呂川・湧別川・渚滑川等及び太平洋に入る鶴川・沙流川・染退川・釧路川等の流域には相當肥沃なる平地の展開せるもの尠ならず又石狩川・天鹽川・十勝川・釧路川等の諸川は遡河魚族の浜上多く就中石狩河の鮭魚は古來より日本に於て名高く其他渡島國の遊樂部川、日高國の染退川、根室國の西別川、北見國の網走川・斜里川等も鮭鱒の保護川として漁類蕃殖上主要の地位に在る。

湖沼 本道の湖沼には海岸湖と火山湖との二種あり後者は東部に多い。今其要領を示せば次の如くである。¹³⁾

〔海岸湖〕 北見國猿轡湖（周二十七里鮭鱒鱒）。野鳥湖（周七里海口を修理せば良港）。網走湖（東西一里南北三里移民適平野）。

〔瀧湖〕 瀧湖（東西二里半南畔の原野は移民適）。根室國風蓮湖（本島第二の大湖周十六里三十町平野）。釧路國嘴黑沼（移民適）。

〔厚岸湖〕 東西四里南北三里湖内五十餘の島及海底は牡蠣より成り蠣の大きき五六寸—一尺三寸海岸に葡萄・大熊・鷹・鷲。

〔春鳥湖〕 沿海二十五里の間に在り、附近天明年間より炭田。十勝國千代節沼（周三里移民適）。由連湖（周四里昔鱒佳む）。

生籾内沼（農耕適）。

〔火山湖〕 渡島國大沼（周八里鯉鮒景勝）。葦栗湖（同上）。膽振國洞洞湖（アメマス、水結せば土人魚族も死すと）。石狩國支笏湖（東西三里南北二里元文頃鶴鴨群居）。長都沼（周三里遊獵）。馬追沼（長一里半遊獵寶曆頃より畑）。膽振國宇都内沼（東西一里南北半里遊獵往時勇拂への航路）。釧路國阿寒湖（周十里鮭鱒の原産地の景勝地）。

(丙) 地域 地域の考察は一は面積の大小からと他は形狀からとの二方面より之を爲し得る。

土地の廣大は必ずしも經濟發展上に貢獻するとは限つてゐない、例へば無人島や沙漠の如き不生産地等を想像し得ずとせざるも、又土地は一方に於ては自然的經濟資源の包擁者であるから此意味に於ける限り富源の多大なると共に其面積の廣大なる事が經濟發達上大なる基礎を成すものであり之に反する場合其他の條件が例へ良好

であつても經濟の發達は期し難いのである。

然し乍ら面積の廣大といふも人口の増加に依て其重要性を變化せしめ換言すれば其増加なるものは面積の狭小なると同様なる結果に外ならぬ事となるに至る事も勿論である。

土地の廣狹なるものは(勿論人口稀薄の前提に於て)之を經濟的に觀れば即ち其廣大なる時は常に粗放的經濟の根底を持ち現經濟人の其地への往住を容易ならしめ、其狭小なる時は常に集約的經濟の過程を示して居ること例へば今日のラブラタ地方は前者であり印度のヒンドスタン等は後者の適例とす。

今北海道の面積を觀るに其屬島を除ける本島のみに於て五、〇九三方里有して居り之は本州本地の約三分の一、植民地を除ける日本全土の四分の一又は奥羽六縣と新潟縣とを加へたるものに匹敵し、即ち本島、は斯くしたる大地積を日本全土に對し占めて居る。

又地形狀より觀る時は一般に土地の環境なるものは(一)島地(二)半島地(三)接壤の三種に分ち得るが(一)に於ては四圍海を以てするが故に兎角外地人との接觸の機會を遠ざかるが爲場合によつては獨特の文化を而も永續する傾向もあり又場合に依ては他國との間に山岳等を以て境せられある場合よりも海洋なる事が却つて交通に便宜を與へ文化の交流に益する事にもなる。(三)は之に反し常に四隣と相接し、文化の流入・國勢の壓迫等により絶えず文化の盛衰上に變動を來すものである。(二)は(一)と(三)とを折衷する。更に又土地自身に於て南北に長き時は其地域内に多種の氣候帶を包含する爲産物多種に互り經濟上有利を成し、東西に長き時は之に反す。

今之を北海道に就て觀るに本道は四隣海を以て圍へる一孤島であり、土地自身よりすれば廣袤一二九里・一六里の菱形を成すを以て面積こそ非常に廣大なりと雖其形狀に至ては我國全土の如く南北に細長きとは異り東西・南北共に略相等しき状態に在る。

(丁) 地位 地位とは一定の土地が他の土地に對して有する地理的關係である。例へ其土地自體に經濟的變化の

14) 1) と同斷 頁 1,
2) 鈴木 同斷 頁 183.
15) 11) と同斷 頁 2.

原因なくとも他の土地との關係より其土地の經濟に變化を及ぼす所に其の土地の他地に對する地位が其地經濟變化上に大なる基礎を成すものである。

北海道本島は經緯度は西は東經一四五度四九分より東は東經一三九度四五分に至りて露嶺勘察加と相對し、南は北緯四一度二四分より津輕海峽を隔て、本州に相臨み北は北緯四五度三一分に至り宗谷海峽を挟んで樺太島と相對す。¹⁶⁾ 四周は西は日本海、北はオホツク海、東南二方面は太平洋に相瀕す。

(II) 自然的勢力 之を氣力・地力・水力及び天災の四項に分つ。

(甲) 氣力 之は主として氣候を指す。氣候は天氣の平均狀態を謂ふ。氣候は自然界動植物界人類の「體質・精神」と性情等を左右し經濟上に大なる影響を及ぼす。即ち寒帯に在ては經濟資料となるべき動植物の生育は不十分であり之を經濟的に利用する主體たる人間亦其活動活潑ならず。熱帯地方に在ては之と反對に天產物豊富なるに山り自發的勞働の要なく且つ懶惰に流れ從て經濟文化の進歩は期し得ず。然るに溫帶地方に在ては天然の經濟的資源も寒帯地方程乏しからず、四季の別あり而も氣溫適順するを以て經濟的活動の要を生じ且活潑なる活動をなし得るを以て經濟的文化は進歩を成すの地位に在る。

本道の氣候を先づ假に森林植物帶に標準を採り氣候帶の上より之が大要を考察するとせば南部たる溫帶北部渡島・後志・膽振・より北部たる寒帶南部溫帶北部を除外しを除く地¹⁷⁾に跨る。之を更に内部的氣象に依て其大要を觀るに年平均氣溫は函館の八度四分より帶廣の四度八分の間^{札幌六・八度 旭川五・二度}に在る。更に之を氣溫の高低より觀る時は内陸に於ては海上氣象の影響無く寒暖の差大にして寒冷時零下三十度以下なる事あるに反し、酷暑九十五度以上に昇る事珍しからず、又海岸地方に在ては「寒暖二海流の關係から西海岸地方は比較的溫暖で東及南海岸地方は之に反し概して南西部に高く北東部に低い。又内陸地方と海岸地方との差は五月よ

16) 11) と同斷 頁 1.
17) 北海道廳 北海道森林一斑 (昭和八年) 頁 8.

り十月に至る平均に於て内陸地方は高く、海岸地方は低く殊に七・八月の盛夏には此傾向顯著にして例へば札幌・旭川・帯廣等は高温にして函館低きが如きである。何れにせよ酷暑期は一月中旬より二月中旬に亙り其絶對最低氣温は零下三十餘度を下る事稀ならず。斯く本道の氣温は地方に依りて著しき差異あるのみならず寒暑共に烈しく又晝夜の較差大にして殊に内陸に於て此傾向著しき特徴とする。今之を我國東北地方に比すれば概して低温なるを免れずと雖盛夏の氣温は甚しく低き事なく特に旭川の七月の如き青森・宮城・岩手諸縣よりも高し。但し春秋の氣温は一般に以上の諸縣より低い¹⁸⁾。

以上の結果本道は自然地味豊瘠にも差異あらしめ即ち西岸は樹木繁茂し農耕に最も適するも、東岸及び南岸は酷寒なると冬期長きによりて農耕は適せず樹木も亦暢びざる所多し。而して之が内陸に於ける寒暑兩極端なる現象は人類及生産物に如何なる關係ありやといふに例へ夏季の酷暑時に於いても朝夕の冷しきは却つて内地よりも凌ぎ易く、これ本島の最も人畜の健康と農作物の發育に適する所以であり又冬寒と雖防寒の設備あれば敢て内地人の想像するが如きものに非ず。又之が生産物に於いては如何と云ふに斯の如く冬季寒冷なるにも拘らず、到處草木の繁茂せるを見るは一方土地の肥沃なるに由ると雖亦此夏季の炎熱の甚しきに因るであらう。尙冬季の嚴寒が産業上の關係としては之を採礦業に見れば硫黄山の如き外業に従事する者は冬季は休業を餘儀なくするも採炭業の如きは休業の要なし。又積雪は深山の木材或は其他の諸物品を容易に運搬し得るの便ありて本島の冬季は反つて必要のものなりとすべきであらう。

次に雨霧に就いては降水量は冬春に少く夏秋に多く、其分布は太平洋に面せる方は六・七月—十月上中旬迄多く以後は快晴、日本海に面せる方は春夏頃は前者より稍少きも秋冬なるに隨ひ増加する、オホツク海に面せる方は四季共他地方より概して少ない。濃霧は本道は四圍海環の關係上沿岸地方海霧を見る事多く、太平洋沿岸殊に

18) 2) 北海道農事試驗場と同斷 頁 3.

18) と同斷 頁 3.

17) と同斷 頁 8.

北海道廳 北海道水産要覽 頁 7.

膽振・渡島の一部・日高・釧路・根室の沿岸地方は南東寄風に伴ひ南方海上遠くより濃霧襲來し、同時に氣温は低下し曇潤日繼續する事のあるを常とする。此爲又漁獲に惱まされ其發達を困難ならしむる一因をも成す。¹⁹⁾

又霜雪は初霜の最も早きは帯廣の九月二十五日頃其他は概ね十月上・中旬、晩霜は網走・羽幌の六月五日頃を最終とする。又初雪は十月下旬乃至十一月月上旬、終雪は四月中旬乃至五月上旬で我國東北地方よりは降雪期は稍早きに過ぎ融雪期は約一箇月後るといふ。降雪量は西海岸地方に多く、太平洋向地方少し。吹雪は一般に漁獲を惱まし其發達を妨ぐる原因をなす事少なからず。²⁰⁾

(乙) 地力 之は主として地味を指す。地味は土地の肥瘠及び其包藏する有用礦物の多寡によつて定る。土地の肥瘠は直に農林業に影響し、埋藏有用礦物量の如何は鑛業に影響する。

先づ本島の地質は如何といふに之を構成する岩石の種類は古生層・中生層(白堊系)・第三紀層・第四紀層・古火成岩及火山岩等にして就中第三紀層の區域最も多く總面積の四割三分を占め第四紀層・火成岩・中成層・古成層等之に次ぐ。現在農耕適地と稱せらるゝものは曾て火山拋出物を以て覆へる所なる如く而も斯かる土壤を以て構成してゐる地域は概算實に百十八万八千餘町歩に達して居る。尙本道土壤中府縣と趣を異にしてゐるのは泥炭地の概測十九万九千餘町歩なる廣汎地積の存在で第四紀層に多く中央凹地帯及北部に互て分布してゐる。更に礦質土壤の土性に就ては壤土又は砂質壤土等の壤土系が最も多く砂土系のものに次ぎ其他は比較的少い。(第一表参照)

今以上の本島地質土性が有する農牧力は如何と云ふに昭和九年北海道農事試驗場の調査に基く第二表が參酌し得る。

- 20) 18) と同斷 頁 4.
17) と同斷 頁 7.
北海道廳 北海道水産要覽 頁 7.
21) 北海道農事試驗場 北海道農事試驗場要覽 (昭和九年) 頁 56.
22) 北海道農事試驗場 第一陳列館陳列品解説 頁 2.
23) 前同斷 頁 2, 3.

北海道經濟文化の基礎的條件

第一 表

地 質		土 性	
北 西	後志	壤 土	
	石狩	壤土—砂質壤土	
南 西	渡島	同 右	
	膽振	砂質壤土—砂土	
南 東	十勝	南部は砂土 中部は砂質壤土 北部は壤土	
	釧路	壤土及砂質壤土	
南	根室	堆質壤土—壤土	
	計		

第二 表

普通鑛地	灰地	泥炭地	農耕適地	放牧適地
一三四、九〇〇	—	三、〇六〇	五八、六五三・三	七九、三二七・八
五二、九八七	九、〇七三	五九、四七一	三三八、三九・五	三四三、三〇一・五
一九六、一五三	—	二三、七六七	一五一、〇〇九・九	六八、九二〇・一
八四三、〇五〇	九、〇七三	八六、二九八	五四七、八九一・四	三九〇、五九九・四
七八、四〇九	三三、〇三一	一四三	六〇、九七五・一	四〇、七三八・九
一一三、七四九	七四、六七三	七、五三三	一三七、三三〇・九	七六、六三九・一
一〇〇、三六六	三二、五六三	二、〇五一	五七、六四四・四	七八、二五五・六
三二、五〇五	一一〇、七三六	九、七二七	二五五、八七四・四	一九五、六三三・六
六五、九二八	三三、五〇〇	四、四七一	二九四、八六八・八	一一一、三三〇・三
一〇三、四九二	九八、六四四	三、三八九	一三九、七六三・三	九四、七六〇・八
一〇、六一九	一七三、九五九	八、二六四	一二一、三六九・五	七〇、五七三・五
一八〇、〇三八	六〇七、四〇三	四三、二四四	五五五、九一〇・五	二七六、五六三・五

合計 表面地質	基礎地質	紀第四 中生 火生 其他	紀第三 中生 火生 其他	紀第二 中生 火生 其他	紀第一 中生 火生 其他
	表面地質	三三 三三 四三 三六	四三 四三 四三 三六	四三 四三 四三 三六	四三 四三 四三 三六
北東 北見	火成岩三〇%、 第三紀層二二%、 右、中生層一四%、 一、二%、其他一% （表面同 古生層）	同	同	同	同
右	三六、四五三	六六、七六	三三、三五四	三三、八八七、四	一九、五九四、六
左	一、六六一、〇四五	八二三、四六六	一六三、五九三	一、五八三、五五四、九	一、〇五四、三二、一

而して更に以上の農耕地力は如何なる種類の作物に適せしむるやの能力査定の一方法として同場にて調査せし所に據り一表を試みるに次の如くである。

空知	一二八、八八九・六町	米二七・燕麥一六・小豆・大豆・菜豆・裸麥・玉蜀黍・馬鈴薯・其他
上川	一二八、六八一・八町	米三〇・燕麥一二・馬鈴薯一一・裸麥・小豆・大豆・菜豆・其他
河西	一二三、一五二・五町	大豆一八・菜豆一四・小豆一一・燕麥・豌豆・米・甜菜・其他
網走	一〇二、八一・九町	燕麥一四・豌豆一四・裸麥・菜豆・薄荷・大豆・小豆・馬鈴薯・米・甜菜・其他
後志	八五、三〇七・〇町	燕麥一二・菜豆・馬鈴薯・大豆・小豆・米・玉蜀黍・其他
石狩	六五、七九六・四町	燕麥三〇・米一五・大豆・小豆・玉蜀黍・大麥・亞麻・其他
膽振	四四、五九〇・〇町	米一〇・大豆・小豆・馬鈴薯一〇・玉蜀黍・燕麥・小豆・其他
渡島	三二、九三八・一町	大豆一七・米一四・馬鈴薯一〇・玉蜀黍・燕麥・小豆・其他
檜山	二九、一三〇・五町	大豆二七・米一〇・馬鈴薯・燕麥・小豆・玉蜀黍・其他
留萌	二六、三六八・七町	燕麥一四・小豆一三・大豆・裸麥・馬鈴薯・菜豆・豌豆・其他
浦河	二五、三四三・七町	大豆一八・米一七・燕麥一四・小豆・其他
釧路	一六、三七三・九町	燕麥一八・大豆一五・馬鈴薯・小豆・玉蜀黍・菜豆・其他
宗谷	一一、二二五・三町	馬鈴薯一七・燕麥一六・裸麥・大豆・玉蜀黍・小豆・豌豆・菜豆・其他
根室	五、八三三・六町	燕麥一四・大豆一〇・馬鈴薯・裸麥・菜豆・小豆・其他

註 作物名下の数字は作付面積の%、数字の無きものは一〇%より以下、「其他」なる作物は河西を除き三〇%―五〇%と知るべし。

次に森林に就ては如何といふに森林植物帯に關しては既述せるを以て此處に再び贅言せず。其林相は針葉樹・潤葉樹及針潤混淆の三種に大別せらるべく針葉樹は主にトド松・エゾ松にて本道西南部に少く北東に従ひ漸増す潤葉樹は主に西南部を占め本道森林面積の大半を占め其多くは混淆林で陽樹に屬するハンノキ・カシハ・カバ・ヤマナラシ・ドロ・ナラ又はブナは比較的群生してゐる。而して今主要樹種針潤喬五十有餘中主なる樹木の種名を掲ぐれば左の如くである。²⁵⁾

針葉樹

アスナロ・イチキ・ヒメコマツ・ゴエフマツ・ハヒマツ・エゾマツ・アカエゾマツ・トドマツ・シコタンマツ

潤葉樹

カツラ・ホホノキ・コブシ・シナノキ・オホバボダイジユ・キハダ・ニカキ・トチノキ・イタヤカヘデ・クロビ

イタヤ・メイゲツカヘデ・ヤマモミヂ・イヌエンヂユ・エゾヤマザクラ・シウリザクラ・アズキナシ・ナナカマド・ハリ

ギリ・コシアブラ・ミズキ・ハクウンボク・ヤチダモ・ハルニレ・オヒヨウニレ・ヤマクハ・ラニゲルミ・サハゲルミ・シラカンバ・サイハダカンバ・エゾノダケカンバ・ハンノキ・ヤマハンノキ・ミヤマハンノキ・サハシハ・アカシデ・ア

サダ・カシハ・オホナラ・ミヅナラ・コナラ・クリ・アナノキ・バツコヤナギ・トカチヤナギ・ドロヤナギ・ヤマナラシ

次は有用鑛物の埋藏力であるが本島に産する有用鑛物の其主なるものは金銀鑛・硫黃・石油・鐵鑛・格魯謨鐵鑛・滿俺鑛・硫化鐵鑛・銅鑛・砂金・砂白金・砂鐵等であり其他鉛・亞鉛・水銀・水鉛・重石・白金・ニツケル砒・燐・黑鉛・石膏・硅藻土・石灰石・瑪瑙・琥珀等である。尙其分布を略示せば次の如くとなる。²⁶⁾

石

炭 石狩炭田・釧路・白糠・雨龍・茅沼炭田等が著名。

金銀鑛

其分布廣く北見・後志・膽振・日高・渡島・石狩。

硫黃

其分布極めて廣く天惠頗る豊。

石油

濁川・石狩・勇拂・日高・天鹽・宗谷。

鐵鑛

膽振。

格魯謨鐵鑛

日高。

滿俺鑛

後志。

25) 17) と同斷 頁 8--12.

26) 山崎守作 鑛業(改造社)地理講座 日本篇 第一卷) 頁 210-212. 北海道廳 北海道要覽 頁 111, 116.

硫化鐵鑛 後志・渡島。

銅 鑛 後志・膽振・天鹽・根室・十勝。

砂金及白金 全道に擴る。

砂 鐵 膽振・天鹽・北見の海濱。

此中石炭は九州に亞く産額を占め、硫黃亦府縣中の首位に在るが其他昭和八年の産額を見るに

石炭七、〇六六、一六五噸。硫黃三八、三七八噸。金四三七、二一六匁。銀七、〇六四、〇四三匁。滿俺一、二九七、〇八二貫。石

油八一、二〇一石

である。

今参考の爲以上説き來りし農・林・鑛各産額を昭和八年度に於ける圓單位を以て之を觀れば農産物一四四、二三八、六〇一圓・林産物二四、五四三、八一二圓鑛産物五二、七九〇、二二二圓である。尠くも之れ生産力の一面を

左證するものである。

(丙) 水力 之は海洋に在ては潮汐と海流、陸地に在ては河湖の有する力である。海洋關係に就ては之が海岸地方に及ぼす影響は既述せる如くであるが之は又海産物の種類を異にせしめ其多寡を決定する。河湖の水流は之を以て灌漑に、工業動力として水車又は電氣事業に或は材木の流送等に利用せしめ得る。

本道の海流は暖流たる對馬海流は同海峽より日本海に入り其東部を北東に流れ其一小部は津輕海峽に入りて日高の沿岸に達し親潮と合す。他の大部は本道西岸に沿ひ宗谷海峽の西側に至て二派に分れ、一派は樺太西海を洗ひ北流し一派は宗谷海峽を過ぎ本道北岸に沿ひて南東に流れ更に二派となり一は知床岬を迂回して根室海峽に入り他は千島列島の北西岸に沿ひ北方又は北東方に流る。又寒流即ち親潮はベーリング海峽を経て千島列島南東に沿ひて南流し色丹・多樂・水晶の諸島及根室半島に至り更に南西に流れ釧路・十勝・日高の沿岸を繞りて膽振灣口に達し南流す。又樺太海流はオホツク海より樺太東岸に沿ひ南下し其中一派は南東に流れ千島列島諸海峽を過

此總原動力は一般需用・一般運送用（鐵道又は軌道）及家用共落成一一四、六一七・五キロワット。未落成共合計一二三、〇〇三・五キロワットであつて、これ本道河川の電動力に對する水利能力の一左證である。

(丁) 天災 自然の強力が人生を甚しく脅すものは天災である。天災とは地震・洪水・飢饉・火災其他人間の不可抗力に因り生ずる危險を謂ふ。此等は人間積年の經濟文化の蓄積も一朝にして覆へし、其屢々なるに於ては經濟文化の回復や伸展にも大なる影響を及ぼすものである。

今本道に於て應仁元年より慶應二年に至る四百年間の状態を河野廣道博士の調査を基礎として之が年度を算するに大火四二、飢饉(凶作)(不漁)三一、大雨(大雪)二九、大風二五、惡疫一八、洪水(海嘯)一八、噴火一四、地震一四となり大火最も多く地震及び噴火最も少い。

三人間的環境

(I) 資質 自然力と人間力とは何れが強大なりやと云へば絶對的に云へば勿論自然力の方が優れりとすべきも相對的に於ては必ずしも然りとほしない。即ち今之を文化の上より觀る時は文化が原始時代であればある程人間は自然力其儘の影響を享ける事が一層大ではあるが、文化の進むにつれては人間は自然を利用する程度が漸増し、自然其儘より支配せらるゝ程度は反對に減退するを以て人間力は相對的には強まる譯となる。此處で人間其ものを標準とした經濟文化への最も重要な環境として先づ人間の資質が問題となつて來る。何となれば上述の如く外界の物資を利用する場合其手段方法は人間の資質によつて之を異にし此手段方法によつて經濟文化の發達程度を左右するが故であり即ち伶俐にして進取的氣象に富む人類はよく經濟的發展を遂げ惰弱無智なれば之に反するものである。

明治維新前に於ける北海道の住民は先住民族たる蝦夷と後代渡來せる和人とより成る。

蝦夷は慇懃・朴直なるも數理的觀念乏しく、文字も曆もなく智識一般に勝れず、保守的にして名利心に藉する事もなき代り浮華にも走らず、心目前の事のみに止り、忍耐もなく物に飽き易く男子は至て怠惰性に富み安逸を貪り且つ凡て氣まぐれの事をなすを常とする、但し女はよく働く。彼等は平時は如何にも温順、寧ろ怯懦の感あるも、此等は時に嫉妬と化し、狂暴性を現す、慍悍にして武を好み動もすれば同族間の鬭争をこれ事とする。³¹⁾此等は洵に經濟的進歩を致すに縁遠き性格であり例へ又優等人種に接する事ありとするも兎角同化の機會を失はしめるものと云はねばならぬ。

和人は優等人種に屬し、聰明にして注意深く、温順・端正・勤勉にして不羈自由を好み、進取的氣象に富み統一的性格を有するが唯稍新奇に趨り疑惑の念深きの缺點ありといふ。

人類及人種 (ランゲ、カール原著 關澄藏譯) に曰く「東方亞細亞の文明國民と稱せらるゝ日本人 (略) 勇將の事蹟を記載したる歴史を読むことを好み (略) 繪畫及び彫刻に巧み (略) 要するに日本國民精神の活潑なることは生活の程度を均うする歐米人に優ること遠く、美術上及び文學上の想像力に富み (略) ツーンベルグ (略) ライン共に (略) 詳論したり此二著述家の說に據れば日本人の性質は聰明にして注意深く不羈自由を好むも柔和慇懃にして稍や新奇に趨るの癖あり勉強にして器用に節儉にして廉直に温順にして親切に端正にして篤實なり又其悪性は怪訝疑惑の念深く執迷にして多情なるにあり。」

以上を以てすれば少くも本道經濟社會に在ては和人は支配的、蝦夷は被支配的階級を成し、經濟を動かす者は主として和人たるべき性質を持てるものと謂ふべきである。

Ⅱ) 數量 經濟變動の原因を人口の變動に求むる程經濟史上人口は重要な地位に在るものであつて之は實に一國實力の基礎を成すものである。財力豊富なる場合多くの人口を抱擁する處は經濟は發達し、人口稀少なる時は之に反する、然し乍ら人口益々増加し、之が爲に財力の割合が減少する時は之に従ひ經濟は疲弊する。但し此等は他の條件を含めざる場合の假設であるが要するに人口は其地域に於て經濟發達に要する他の條件に對し適度に存在するといふ事が必要である。

31) 談事足跡人
醫士舊俗
ぬイヌ道土
あいな北海夷
二不常野
場岡河
關滿串

明治維新前の華夷の分布は大略和人は僅か渡島半島、蝦夷は其以北の廣大なる地域を占據して居たが其人口は「福山秘府」「蝦夷雜書」(坤)及北海道史(第一)等に依れば

元祿十四年(一七〇一)九月 土着民一萬八千二百四十八人、土着人旅人共二萬八千六百六十六人。
和入 寶曆六年(一七五六) 二萬二千六百三十二人(内男一萬六百二十三人、女一萬九百人)。

明和七年(一七七〇)四月 二萬六千六百四十四人。

蝦夷 二萬或は四萬とて定かならず。

文化四、五年(一八〇七—一八〇八頃)

和入 三萬一千七百餘人

蝦夷	東蝦夷地	男五、八四八	女六、一八〇	計一二、〇二七人
	西蝦夷地	男五、七五五	女五、九三七	計一一、六九二人
				合計 二萬三千七百十九人
				(東蝦夷地は一人計算違)

で華夷兩者各二、三万程度であり而も後代になるに従ひ蝦夷は漸次減退し、和人之に反して漸増するの傾向であつたが何れにしても其密度より言へば和人に於て甚だ多く蝦夷に於て甚だ少なきが一般状態であつた。

(II) 社會制度 人類が社會を形成して生活する以上經濟は之が制約を切離した關係で動靜する事は出来ない。諸社會制度中經濟の發展上に最も影響を與ふるものは政治制度と財産制度であらう。殊に經濟上の自由と財産の私を認めざりし維新前の封建社會制度に在ては經濟の發達を阻害せし事又甚しかつた。

(甲) 政治制度 北海道が明治維新前經濟史的意義に重きを置き得るは前松前藩より以降であり而も該藩は豊臣氏の天下を統一せしに始まるが故に明治維新前の北海道經濟史を稱する期間は全く封建社會制度の時代と終始した譯である、故に自然大勢は之に準ぜられねばならなかつた。然るに一方本道は奥州以南とは地理的状況を異にするを以て同じ封建社會制度の中ではあり乍らも一種特異の點を有し、其特に經濟展開上に影響を及ぼしたるもの

は知行は農地に非ずして漁場たりし事、和夷の衝突を防がんが爲和入地及蝦夷地なる民族的境壁を作り特別の場合の外は長期なる所の松前藩政期に於ては原則的に兩者の往住を禁じたる事、和入住民中藩規として土着者に非ざれば漁業を營む事を許さず、土着者は松前に籍を有する者に限られ然らざる者は幾十年を滞留すと雖依然旅人たるの取扱ひなりし事等が數へられるであらう。

(乙) 財産制度 明治維新前の我國に在ては動産は其私有を認められ居りし如くなるも不動産に就ては一般に不確定であつた、然し唯其占有權・用益權的のものは認められて居た。

北海道に於ては和入地に在ては宅地は前松前藩時代宅地を書入れ又は賃入れ等の例に於て既に其所有權的存在を認めらるゝ如くなるも村落中人の手を染めざる未開地に至りては人々隨意に之を耕作使用するの慣習があり開拓使に至る迄其風が存続した。又漁獲上に於ては古文獻に據て推察するに漁獲區域は村落有で私有は認められず又村落有とは云ふものゝ例へば青森縣尻屋部落等に漁業區争が絶えざりし如きに反し此地に於ては此争は殆ど例外的でありし所より推測すれば隣村との漁區も嚴格的に付定められ居ざりしが如く解せらる。又蝦夷地蝦夷に在ては動産と熊の穴は私有的なるも漁獵地域は部落有で他部落民に對しては嚴然たる繩張を爲してゐた。³²⁾

(昭和十年十一月三十日)

32) 栖原角兵衛 栖原角兵衛履歷書
33) 津輕藩 津輕一語志 (十之中)